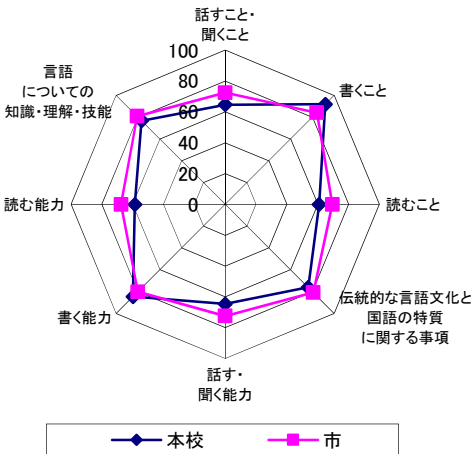


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.6	72.4	70.5
	書くこと	91.9	84.1	70.0
	読むこと	60.8	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.1	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	64.6	72.4	70.5
	書く能力	84.6	80.2	68.0
	読む能力	58.6	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	76.7	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

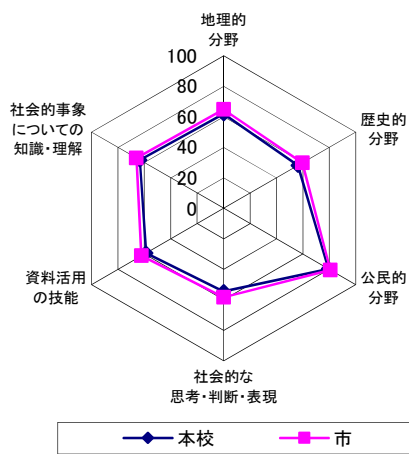
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○資料を活用した話し方の工夫を捉えることができる問題の正答率は参考値より2.1ポイント上回っている。 ●市の正答率72.4%に対して、7.8ポイント下回っている。 ●聞き手の意見を反映しながら、論理的な構成や展開を考えて発表することができる問題の正答率が市の平均より、15.9ポイント下回っている。	・実生活に結びつくような言語活動を積極的に取り入れることで授業中に学んだことを普段の生活でも意識させるなどして、「話すこと・聞くこと」の力の定着を図る。 ・「聞き方テスト」やノート指導を通して、問題文を意識して聞いたり、重要なポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせるとともに、実際にスピーチを行うことで実践力を身に付けさせていく。
書くこと	○市の正答率84.1%に対して、7.8ポイント上回っている。 ○自分の意見を明確にして書くことができる問題の正答率は、市の平均より10.1ポイント上回っている。 ○読み取った内容を明確にして書くことのできる問題と自分の考えを明確にして書くことができる問題の正答率は市の平均を上回った。	・授業中の記述式問題や作文において、今後も「書く」ことの指導を継続していく。さらに、資料収集や文章構成の作業も授業の中で取り入れていきたい。 ・全ての学級においてスタンダードダイアリーを毎日書くことにより、「書く」ことを習慣化させる体制を構築する。
読むこと	○登場人物の心情を捉える問題の正答率は参考値とほぼ同じであった。 ●市の正答率69.5%に対して、8.7ポイント下回っている。 ●聞き手の意見を反映しながら、論理的な構成や展開を考えて発表することができる問題の正答率は、市の平均より15.9ポイント下回っている。	・論説文を読むことに関しては、どのような話なのか理解させ、そのうえで興味・関心をもたせるような指導を授業の中で進めていく必要がある。また、文章に沿う適切な資料を選ぶことができる指導も続けていく必要がある。 ・文学作品については、登場人物の細かい心情描写をとらえることに苦手意識が見られるので、教科書の文章だけではなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○第3学年までに学習した漢字を読むことができる問題では4問中、2問が参考値より上回っていた。 ●市の正答率80.8%に対して、4.7ポイント下回っている。 ●用言の活用について理解している問題の正答率は市の平均より18.2ポイント下回っている。	・漢字の理解を高めていくために、授業中に漢字の書き取りの時間を作る必要がある。また、用言の種類や、敬語などの文法事項に対して苦手意識があるので、授業の中で取り上げていく必要がある。 ・授業における語彙力を増やしていくために、言語活動の工夫や、グループ活動で発言の機会を増やしていく必要がある。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.9	64.8	54.5
	歴史的分野	56.3	59.7	52.2
	公民的分野	79.4	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.5	58.3	49.5
	資料活用 の技能	58.7	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	63.4	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

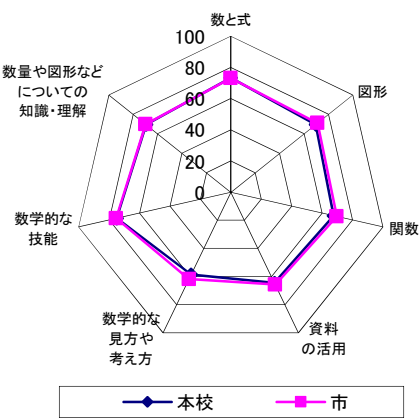
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「世界の姿」に関する問いの正答率は概ねの質問項目で市の正答率を上回っている。 ●市の正答率64.8%に対して2.9ポイント下回っている。 ●複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、その内容を表現する問いの正答率が、市の平均よりも9.2ポイント下回っている。 ●過疎・過密問題に関する理解を問う問題の正答率が市の平均よりも12.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理的分野では、地理的・空間的理解をもとに複数の資料を活用して、多面的・多角的に考察する力、表現する力に課題が残る結果であった。授業において写真資料や統計資料をふんだんに活用して、地域の共通性や特異性を考えさせる学習活動を展開していくことが大切である。 ・新聞資料を活用するなど教材を工夫して、過疎・過密の問題等の現代社会に潜む地誌的な問題に対する興味・関心を高めるような手立てを講じていく必要がある。
歴史的分野	○「聖徳太子の政治」「聖武天皇の政治」「元禄文化の特色」に関する知識・理解の問いの正答率が、市の平均を上回っている。 ○資料をもとに武家諸法度と関連づけて判断する問いの正答率が、市の平均を上回っている。 ●市の正答率59.7%に対して、3.4ポイント下回っている。 ●思考・判断・表現に関する問いの正答率が、概ね市の平均を下回っている。	・歴史上のエピソードを取り上げながら授業を展開する等、生徒を引き付け、生徒の興味・関心を高めるよう工夫していく。 ・普段の授業が史実を理解させることのみにならないように工夫し、資料をもとに「なぜ」や「その結果どうなったのか」を考察・批評させる学習活動を多く取り入れていくようにする。 ・授業1時間1時間の学習のめあてに対する、振り返りの時間の充実を図るように授業構想を工夫する。
公民的分野	○少子高齢化の進行について理解を問う問題の正答率が、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ●市の正答率80.9%に対して1.5ポイント下回っている。 ●「日本の人口分布の特色と課題」「効率と公正」「グローバル化と共生社会」など、資料をもとに考察したり、判断したりする問いの正答率が、市の正答率よりも5ポイント以上下回っている。	・授業1時間1時間の学習のめあてに対する、振り返りの時間を充実できるように授業構想を工夫する。 ・資料活用の技能や思考・判断・表現に課題が残る結果であった。単元のまとめの時に新聞記事等を活用したり、複数の資料を関連付けて考察させたり、現代社会で実際に見られる事象を通して、その特色をまとめさせ、表現させる活動の充実を図りたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.3	73.0	67.5
	図形	69.6	71.1	59.5
	関数	67.6	69.7	60.0
	資料の活用	64.5	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	58.7	61.8	49.6
	数学的な技能	75.0	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	69.5	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

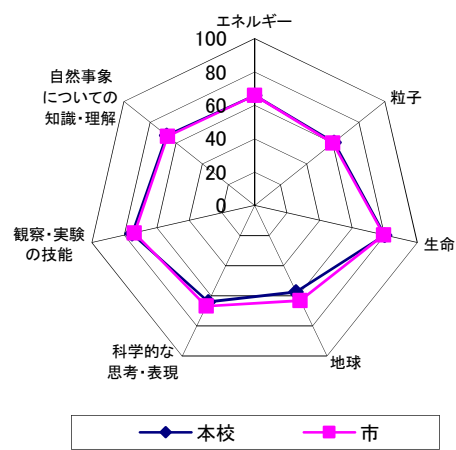
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の領域全体では市平均を0.3ポイント上回っている。正答率が市平均よりも3ポイント以上の問題が5項目あった。 ○連立方程式を加減法で解く問題では、市平均より5.9ポイント上回っていた。 ●正負の数で表された差を求める式を選択する問題では、市平均よりも9.7ポイント下回ってしまった	・今年度実施した1年生からの基礎・基本的な小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎・基本の定着を図る。 ・かがやきルームやT・Tの指導体制、習熟度別学習を活用し、生徒の苦手意識の改善を図る。
図形	○市平均よりも上回っている問題が3項目あった。 ○合同条件を判断し、証明を完成させる問題では、市平均よりも3.3ポイント上回っていた。 ●図形の領域全体では市平均を1.5ポイント下回っている。 ●三角形の高さを表す線分の作図の問題では、市平均よりも11.1ポイント下回ってしまった。	・1年生の平面図形や空間図形の単元の復習を、継続して繰り返し取り組ませることで、学習内容の定着を図る。 ・2年生で学習する三角形の合同証明や相似な図形についても一度復習し、学習内容の定着を図る。
関数	○比例の式から関係を表す表を選ぶ問題では、市の平均より3.4ポイント上回っている。 ○1次関数について、式とグラフを関連付けて答える問題では、市の平均より4.9ポイント上回っていた。 ●関数の領域全体では市平均より1.9ポイント下回っている。 ●座標平面と図形を関連させたり、文章読解をしたりする活用問題では、市の平均よりも5ポイント以上上回っており、活用に課題が残った。	・生徒の中でも苦手意識の高い「関数」の分野において、1、2年生の内容の復習を徹底して行っていく。 ・比例・反比例、一次関数、関数 $y=ax^2$ において、一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに、表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。 ・グループや任意小集団など、学習形態を工夫しながら発展的な問題にも取り組ませることで、活用問題へ対応できるようにする。
資料の活用	○階級の相対度数を求める問題では、市平均と比べ9.8ポイント上回っている。 ○4枚のカードから2けたの整数を作るときの確率を求める問題では、市平均と比べ4.3ポイント上回った。 ●資料の活用の領域全体では市平均より1.2ポイント下回っている。 ●中央値を用いて問題解決する問題では、市の平均に比べ11ポイント下回っていた。	・1年生の資料の分析と活用についてヒストグラムや度数分布表を踏まえながら、用語の確認など復習を行っていく。 ・2つのさいころを投げる問題、硬貨を投げる問題、あたりくじを引く問題など、確率についてのさまざまな事象についても一度指導を行い、内容の定着を図る。 ・資料を活用して問題解決していくような課題学習に取り組ませることで、正しい知識を用いて正しい判断ができるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.0	66.1	56.4
	粒子	60.8	60.0	57.4
	生命	79.8	79.4	75.2
	地球	57.4	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	64.0	66.8	57.2
	観察・実験の技能	75.3	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	67.5	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

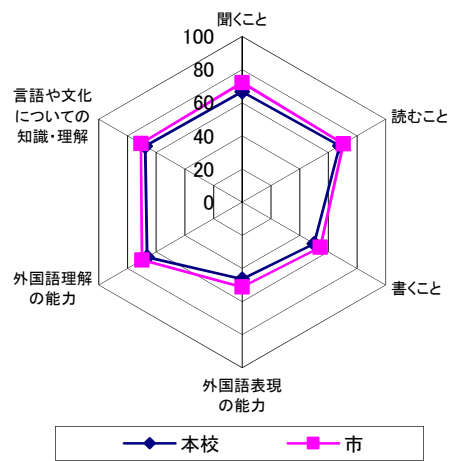
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○台車の平均の速さを求める内容については市よりも8.7ポイント高い数値であった。 ○紙テープの打点のようすを見て判断する内容については市よりも2.3ポイント高い数値であった。 ●正答率は市より0.1ポイント低い数値であった。 ●音の性質について市より5.6ポイント低い数値であった。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・複数の実験結果をもとに関係性を考える内容が不十分なので、話し合い活動を通して、複数の実験結果の関係性を活用する授業を展開する。
粒子	○正答率は市より0.8ポイント高い数値であった。 ○電離についての理解は市より11.7ポイント高い数値であった。 ○銅イオンについての理解は市より9.6ポイント高い数値であった。 ●還元の変化の例の指摘については市より7.1ポイント低い数値であった。	・実験結果等から学んだ知識は定着しているので、今後も実験結果を予想させ、記述・発表させる内容を授業で多く取り入れる。 ・化学反応式やイオン式を問題演習の中で積極的に取り入れていく。
生命	○正答率は市より0.4ポイント高い数値であった。 ○受精の理解については市より5.5ポイント高い数値であった。 ○植物の花のつくりの内容については市より1.4ポイント高い数値であった。 ●刺激に対する反応の実験方法については市より1.4ポイント低い数値であった。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・生命の不思議について、疑問をもつことが不十分なので、話し合い活動を通して、結果だけでなく、疑問をもたせ、「なぜ？」を活用する授業を展開する。
地球	○台風の移動についての理解は市より2.9ポイント高い数値であった。 ●正答率は市より5.7ポイント低い数値であった。 ●地層に含まれる堆積物から当時のようすを推測する内容については市より9.6ポイント低い数値であった。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・重要語句だけを答えさせる発問だけでなく、説明させる問いを多くしたり、記述させる内容を多く取り入れる。 ・身の回りの現象について、結果だけでなく、途中経過（過程）を話し合って導き出し、何度も記述させて学習の定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.6	72.2	67.8
	読むこと	68.0	70.5	70.4
	書くこと	50.1	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	46.5	51.2	49.2
	外国語理解の能力	66.3	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	67.6	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話文の応答に関する問題では、3問中2問、市の平均より正答率が高かった。 ●全体としては、市の平均より5.6ポイント低い正答率であった、 ●大問1の、適する絵を選ぶ問題で、夏に使う物を選ぶ問題と、道案内の聞き取りで市の平均から16ポイント以上低かった。	・正確にメモを取りながら聞くように、繰り返し指導していきたい。 ・一見簡単に思える問題を、よく聞かず思い込みで答えてしまい、間違っ傾向があるので、最後まできちんと聞いてから答えるよう指導する必要がある。
読むこと	○接続詞ifの問題で市の平均を3.4ポイント、長文の問題ではほぼ市の平均と同じレベルの正答率であった。 ●全体では市の平均より2.5ポイント低い正答率であった。 ●対話文の問題で、市の平均より10ポイント以上マイナスの正答率の設問が2問あった。	・3年生になると、教科書の本文が長くなり、対話文の読み取りが減るので、意識して対話文の読み取りを取り入れるようにしていきたい。
書くこと	○疑問詞+to不定詞の並べかえの設問では、市の平均より10.5ポイント上回った。 ●全体としては、市の平均から4.2ポイント低い正答率であった。 ●大問10の、情報に基づいて作文する問題では、3つの設問のうち2つにおいて、市の平均より10ポイント以上正答率が低かった。	・今年度は早い段階から、5文程度の英作文を書く課題を週末に行い、大問11においてその成果が見られた。今後は、いろいろなパターンの英作文の形式に慣れせさせるよう、工夫していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒を育成する。	・確かな学力を身に付けるために、家庭学習ノートを活用し、家庭学習の習慣化を図る。 ・家庭学習ノートのやり方や見本となるものを「学習だより」で全校生徒に示す。	・「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか」という質問に対し、1学年は「①学校の授業がある月曜日から金曜日について」は、市は「1時間くらい」が24.8%で最も多いのに対し、「1時間30分くらい」が25.0%と最も多かった。「②土曜日や日曜日など、学校が休みの日について」は、市と同様に「1時間くらい」が最も高く、25.0%と市の平均を5.3ポイント上回った。2学年は、①は「1時間くらい」が市と同様一番高く、市の平均より3.8ポイント上回ったが、②については「1時間くらい」が最も多く、「2時間くらい」という市の平均を下回った。3学年は、①、②ともに「3時間以上」が市と同様に一番高かった。 ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定割合は、1、2年生において市の平均よりも高い。
	・主体的に考える力を高めるための「書く時間」を重視した授業展開を工夫する。	・「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書く力」は市の平均を4.4ポイント上回ったが、英語の「外国語表現の能力」は4.7ポイント下回った。また、「思考・表現」でも、社会は3.8ポイント、理科は2.8ポイント下回った。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」が1、2年生において市の平均をそれぞれ14.7ポイント、4.9ポイント上回った。学級担任や各教科担任が家庭学習ノートの取組について指導してきた結果と言える。しかし、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」は2、3年生が、「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」はどの学年も市の平均を下回っている。次年度は、さらに、家庭学習の呼びかけを行い、学習時間を確保するとともに、適切な取組内容について指導していきたい。

・国語の「書くこと」において、自分の意見を明確にして書くことができる問題の正答率では、市の平均より10.1ポイント上回っている。授業の中で、記述式問題や作文において「書く」指導を3年間継続してきた結果である。次年度は他の教科においても「書く」機会を多く取り入れ、「振り返り」の場面において、考えの変容やこれまでの学習との関連等を自分の言葉でノートに書かせる活動を充実させていき、学習内容の確実な定着を図るとともに、主体的な学習に取り組む態度の育成を図りたい。

・地域学校園学力向上部会授業力向上プロジェクトで進めている9年間を見通した指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を引き続き図っていく。各教科において漢字、計算、英単語、教科の専門語彙など基礎・基本的内容の小テスト等も引き続き行う。家庭学習の取組については、個人懇談、保護者会や学校だより等を通じて家庭での協力を得ることでより確かな学力を身に付けさせたい。